

特別養護老人ホーム ふしの白寿苑

1 基本方針

- (1) 入居者の尊厳を守り、安心して楽しく生活できる環境と良質なサービスの提供に努めます。
- (2) 職員の人材育成に努め、経営意識を持ってよりよいサービスが提供出来るよう努めます。
- (3) 共生社会の一翼を担う地域福祉の推進と、信頼される施設作りを目指します。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

(1) 入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和 6 年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
70 人		69 人	14 人	13 人	0 人	3 人	10 人	24,661 人	94.52%	70 人
5 年度	70 人	70 人	22 人	23 人	1 人	3 人	19 人	24,175 人	94.36%	69 人

(2) 利用者の介護度別人員

性別	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
男 性	0 人	0 人	1 人	15 人	3 人	19 人
女 性	0 人	0 人	9 人	24 人	18 人	51 人
計	0 人	0 人	10 人	39 人	21 人	70 人

(平均介護度 4.16)

3 事業の実施状況

(1) 全室個室ユニット型施設の特徴を活かした安定的経営

- ア 個室の環境を活かし、家庭から馴染みの物を持ち込み、落ち着いた空間の中で自分のペースでの生活やリビングでは馴染みの方と職員を交えてコミュニケーションに努めた。
- イ 食事・排泄・入浴・健康管理・生活リハビリなど一人ひとりに合ったケアを行うことで、安心して生活できるよう努めた。
- ウ 毎月、「虐待の芽チェックシート」を活用して自らの支援を振り返ることで、入居者の尊厳を守るように努めた。
- エ 入居者の健康管理に努め、地域の病院、施設、居宅介護支援事業所と連携して、困っている高齢者及びその家族に迅速に必要なサービスが提供できるよう努めた。今年度の稼働率は入所 96.5%(目標 96%)、短期入所 95.6%(目標 90%)と目標を達成した。

(2) チームや多職種連携による安全・安心な福祉サービスの提供

- ア 多職種間で連携して3ヶ月ごとのモニタリング、プランの作成と実施及び評価と見直しを定期的に行い、本人と家族のニーズに添った支援に努めた。
- イ 認知症等によりコミュニケーションが難しい入居者の方について、ユニットの職員間、各部署等での情報共有やケース会議での検討を行い、その人に寄り添ったケアに努めた。
- ウ 適切な食事形態の提供、歯科医師及び歯科衛生士による口腔ケア、機能訓練指導員による姿勢の調整などにより誤嚥性肺炎の予防に努めた。また、生活リハビリやレクリエーションを実施し重度化予防と機能維持に努めた。
- エ 胃ろう注入(15名)、喀痰吸引(2名…不定期)などの医療行為を看護師と介護員が連携して実施した。また、介護員を対象に「喀痰吸引・胃ろうによる経管栄養に関するフォローアップ研修」の実施と「喀痰吸引等実地研修」を4名が受講し、安全に医療的ケアが提供できるよう努めた。
- オ 看取り期の入居者には家族に定期的に状態の報告を行うなど密な連絡をとるとともに、好きな食べ物、飲み物を持参してもらうなどご家族に悔いが残らないように努めた。

(3) 組織力強化のための人材確保、人材育成、離職予防

- ア 特に新規採用職員とはコミュニケーションを図り、面談を行うなど離職防止に努めた。
- イ 全職員を対象としたジョブメドレーアカデミーのオンライン研修の受講や職種別の専門研修の受講を行い、資質の向上に努めた。また、キャリアパス対応型生涯研修初任者、中堅コース、リーダーコース、認知症介護実践者研修に各1名、ユニットリーダー研修に3名が受講した。また、介護支援専門員・介護福祉士等の資格取得に係る情報提供を行った。

(4) コロナ禍での家族交流と地域福祉の推進

- ア 入居者の希望に添って、花見、魚釣り、ドライブ、買い物、ふるさと訪問などを計画して、変化と潤いのある生活となるよう努めた。
- イ 今年度の苑行事は新型コロナ前の状況に戻しつつあり、敬老会にご家族をお招きするとともにバイオリン演奏、歌、読み聞かせ、音楽療法、喫茶、民謡と踊りなど積極的にボランティアの受け入れに努めた。
- ウ 居宅支援事業は、登録者39名（要支援7名、要介護32名）を担当した。担当外でも相談があれば情報提供しながらその都度支援を行った。
- また、民生児童委員等と連携し地域の身近なサービスを利用することで社会参加できる在宅生活を継続できるよう支援に努めた。

(5) 働きやすい職場環境作りと安全衛生の充実

- ア 年度末までに ICT 機器（眠りスキャン）を全室に導入した。これにより睡眠状態・呼吸数・心拍数などの把握を行い、夜間の排泄のタイミングや見守りの負担軽減につながるよう努めることとした。
- また、介護記録ソフト（ケアパレット）を導入し記録業務の負担軽減に取り組んだ。
- イ 子育て支援のため勤務時間に配慮し働きやすい職場作りに努めた。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取社会福祉専門学校	6月～9月	2人	64人
計		2人	64人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取湖陵高校生（手作りクッション等のプレゼント）、美萩野老人クラブ（除草作業）、ルーテル教会（寄せ書き、ハーバリウム寄贈）、ウクレレ演奏（ウクレレ演奏と歌）

(3) 講師派遣

鳥取湖陵高校生活環境科にて高齢者施設の生活についての出前授業を実施した。（2月1名）

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設10名及び空床型

年度	実人員	延人員
令和6年度	62人	3,487人
令和5年度	71人	3,324人

（平均稼働率 95.60 %）

(2) 居宅介護支援事業

年度	実人員	延人員
令和6年度	45人	335人
令和5年度	40人	286人